

# GHG プロトコル: GHG以外への領域拡大

国際ワークショップ  
「スコープ3と組織の LCA」

2013年11月21日



## ＜ご留意事項＞

- 本資料は、「国際ワークショップ “Scope3と組織のLCA”」（2013年11月21日）におけるCynthia Cummis氏（WRI）の「企業のバリューチェーン評価に向けたGHGプロトコルの取組」を、みずほ情報総研株式会社が仮訳したものです。
- 本資料の利用に際しては、翻訳に関する二次著作権の扱いを含め、お取扱には充分ご注意ください。

## プレゼンテーションの概要

- GHGプロトコルの背景
- GHGプロトコルと他基準との関連
- GHGプロトコルのコーポレート・フレームワークを  
どのようにGHG以外の領域に使用できるか





## 温室効果ガスプロトコル(GHGP)

- 1998年に以下の団体により設立。



WORLD  
RESOURCES  
INSTITUTE



wbcsd

- 使命: 国際的に認可された温室効果ガス(GHG)排出量の算定と報告の基準を策定し、その広範な利用を促進することで、**GHG排出量の管理と削減を行う**。
-

## GHG プロトコルの提案:

国際的、包括的且つバランスの  
取れたステークホルダー・プロセス

無料で利用可能な  
GHGコーポレート算定基準  
の完全なセット

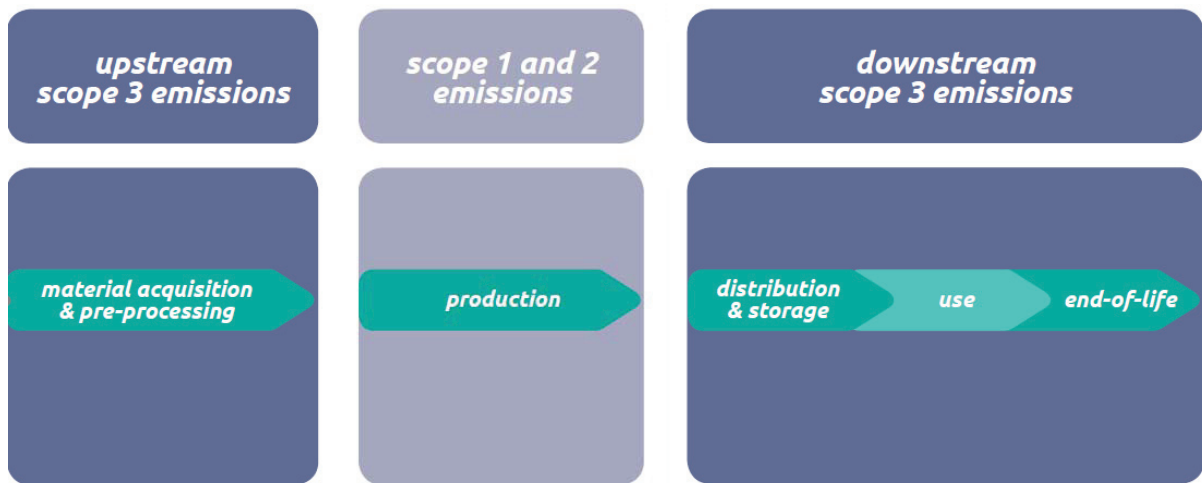
基準の採用を支援する  
ガイダンス、ツール、研修




持続可能な気候戦略  
に関する基盤

## 現在策定中の基準及びガイダンス

	農業分野の ガイダンス	スコープ2 ガイダンス	削減量 算定基準	都市の算定基準	金融セクターの ガイダンス
概要	農業事業者の 排出量の 算定方法	再生可能エネ ルギーの購入 及び関連項目 の算定方法	削減方針及び 措置による 削減量の 算定方法	都市のバリュー チェーン全体の 排出量の 算定方法	金融機関の 投資及び融資の 算定方法
予想される開 始時期	2014年初頭	2014年初頭	2014年初頭	2014年春	2014年終盤
参加方法	ステークホル ダーの一員： ロードテスト	ステークホル ダーの一員	ステークホル ダーの一員： ロードテスト用 基準	ステークホル ダーの一員： ロードテスト用基 準	テクニカル・ワー キング・グループ (TWG)又はス テークホルダー の一員：ロードテ スト ガイダンス

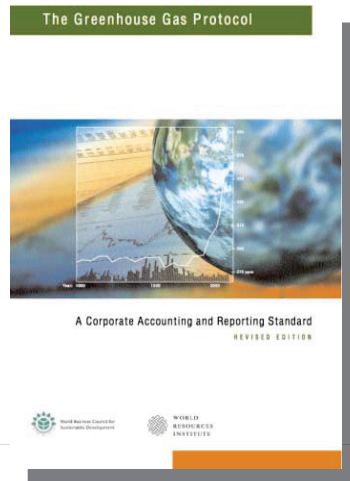
## GHGプロトコル基準はどのように協働しているか



-  *scope 1 and 2 emissions required by the Corporate Standard*
-  *scope 3 emissions required by the Scope 3 Standard*
-  *product life cycle emissions required by the Product Standard*

## GHGプロトコルのコーポレート・フレームワークの適用

- GHGプロトコルのコーポレート基準は最も幅広く採用されているアプローチである。
  - 2012年には、CDP(カーボンディスクロージャープロジェクト)報告者の72%、グローバル500報告者の86%(1,300社)が、GHGプロトコルコーポレート基準を採用した。
  - 多くの国(ブラジル、インド、フィリピン、米国、メキシコなど)が、GHGプロトコルに基づくプログラムを保有している。
  - 主要な国際的報告登録機関(CDP、GRI、The Climate Registry など)が、GHGプロトコルを採用している。



## 組織のLCAの目標

- 環境影響のトレードオフ回避
- ホットスポットを特定することによるLCAの簡易化
- 製品LCA以外の場合のLCAのメリットの実証

GHGのみの方が、組織のLCAを適用するよりも、上記の目標をより満たしている。







## 既存及び提案中の基準・ガイダンスの比較

GHGのみ

複数の環境影響

GHGプロトコル  
事業者及びスコープ 3  
ISO14064

事業者

組織のLCA (ISO,  
UNEP/SETAC,  
OEF)

セクター

セクター

製品  
ポート  
フォリオ

製品  
ポート  
フォリオ

製品  
ポート  
フォリオ

製品  
ポート  
フォリオ

OEF SR  
PEFCR  
PCR

GHGプロトコル  
製品基準  
ISO TS14067  
PAS2050

製品

製品

製品

製品

製品

製品

製品

製品

製品

製品

製品

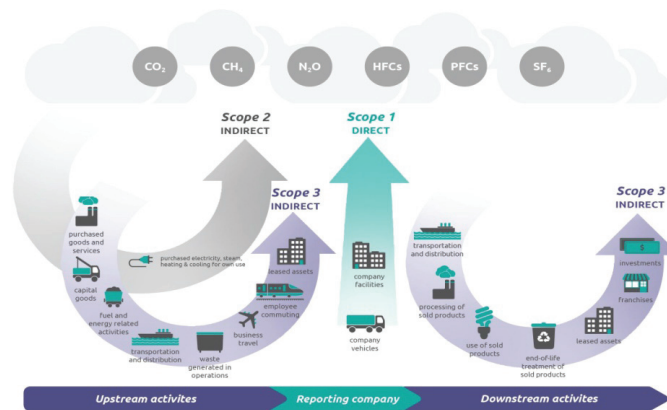
製品

ISO14044  
ILCD  
PEF



## GHGプロトコルのスコープ1、2及び3のフレームワークは、 複数の環境影響の定量化及び報告の有効な基盤となりうる

- スコープ1、2及び3は、企業のバリューチェーンとして最も良く知られている。
- 「ライフサイクル思考」のアプローチを使用。
- 複数の環境影響を報告するプラットフォームは幾つか存在するが、一貫した定量化の方法論が欠如しているようである。
  - 例えばCEO Water Mandateは、GHGプロトコルのフレームワークの境界設定を参照しているが、追加のガイドラインが役立つだろう。

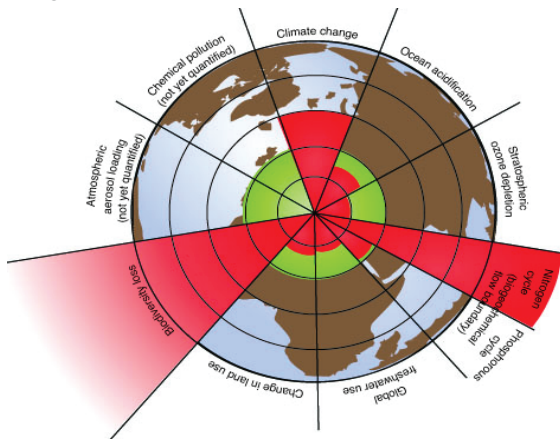


## GHGプロトコルのスコープ1、2及び3のフレームワークは、 複数の環境影響の定量化及び報告の有効な基盤となりうる

- 対処すべき潜在的な限界と問題：
    1. スコープ2の購入電力の取り扱い方法
      - そのままにしておく(発電からのGHG排出量のみ)
      - 現在の「発電のみ」から、スコープ3のカテゴリ3(上流のエネルギー及び燃料関連活動)の全ライフサイクル影響と合わせて、他の環境影響に対象を拡大する
      - スコープ3のカテゴリ3と合わせて、「原料採取から発電まで(cradle-through-generation)」の全環境影響をみる
      - その他の購入資源にも対象を拡大する(購入した水など) – 発電のみ、又は「原料採取からゲートまで(cradle-to-gate)」
    2. 「地域」の影響に関するデータの収集・報告方法(例:水リスク)
    3. 簡易算定を通じた取り組みの動かし方
-

## 結論

- 今こそライフサイクル思考を用いた複数の環境影響のアプローチを用いる時ではないか。
- GHGプロトコルのコーポレート・フレームワークにより、GHG以外の影響領域にも対応可能である。
- GHGプロトコルは組織のLCAの目標達成に実践的なアプローチを提供している。
- GHGプロトコルは、組織のLCAに関するガイダンスとGHGプロトコルのコーポレート・フレームワークとを調和化させるため、UNEP/SETACと連携する機会を歓迎している。



気候変動は、9つある「地球許容量の限界 (planetary boundaries)」の1つである。

出所: Azote Images / スtockホルム・レジリエンス・センター